

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.24

平成31年1月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



院長挨拶
年頭挨拶

診療科紹介
外科

特集①
ダヴィンチ導入

特集②
肥満予防

認定看護師紹介

お医者さんを
目指してくれるといいな!!

第4回病院祭
『マイタウンまつり 2018』
開催報告

お知らせ



～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～



年頭挨拶



白石 悟院長

那須赤十字病院 院長 白石 悟

あけましておめでとございます。皆様お揃いで良いお正月をお迎えのことと存じます。健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

1年が過ぎるのは早いもので、つい最近広報誌（プラタナス）に新年の挨拶文を掲載したようすがします。

『地球温暖化』と『東京オリンピック』

昨年もここ数年と同様に、様々な地域において異常気象や自然災害が発生した年でした。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。また、北半球では前例のない熱波や干ばつ、洪水、山火事などが多発しこれらの気象災害は北極の急速な温暖化によってもたらされる大気の状態と関連があると言われております。今年の夏は屋外ばかりではなく室内での

熱中症発生も多く、当院にも患者が救急搬送されてきました。これらを踏まえて2020年東京オリンピックにおけるマラソンのスタート時間をめぐっては、暑さが懸念されることを受けて日本医師会をはじめ関連団体からの要望などで、当初予定していた午前7時スタートから午前5時半から6時の間に変更となりました。

激動の1年だった2018年

さて、当院の昨年1年間を振り返りますと、2018年は当院にとっては激動の1年と言っても過言ではありません。

4月以降の当院の入院患者数の減少は近年稀なほど長く続き、さらに各病院に労働基準監督署の立ち入り調査や正勧告を命じられたとの情報が駆け巡り、県内でもいち早く年度初めより働き方改革の取り組みに着手しました。また、当院の三次救急を円滑に運営するため救急医療体制を見直し、当直医を一人増員して夜間救急医療を医師4人の診療体制としました。

2018年度後半では、10月末の（医療法に基づく）保健所立入検査と2年に一度の関東厚生局の適時調査、11月には5年に一度の日本医

療機能評価機構における病院機能評価の受審などに当たり、職員の理解と協力のもと一丸となって取り組むことで無事終了することができました。病院機能評価について最終結果はまだ出ていませんが、概ね適切に運営していると評価いただき、訪問審査時や講評で指摘された事項については真摯に受け止め、改善や見直しを行っているところです。加えて、12月にはダヴィンチ（内視鏡手術支援機器）も導入して県北における医療の向上と、最後の砦としての役割を果たして参りたいと思います。

2018年の運営方針として医療の質向上や健全経営は勿論のこと、救急医療や職員のキャリア形成支援などを掲げ、比較的高い水準で実現されたのではと思っております。

地域の皆様に向けて

今後も「マイタウン・マイホスピタル」地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に、当院の基本理念として皆様に信頼される、より良い病院を目指して参ります。地域住民の皆様には質の高い、安心安全な医療を提供し、皆様のニーズにお応えして職員にとって働きやすい働きがいのある、信頼される病院であり続けるよう邁進努力していく所存です。それでは今年1年が皆様にとって、そして病院にとっても良い年になりますよう祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。



乳癌診療において心がけていること

第一外科部長 田村 光

乳癌専門医として

当院外科は、卒後10年以上の経験豊富な医師7名と後期研修医2名で、主に消化器外科と乳腺外科の診療を行っています。筆者は乳癌が専門ですので、当院の乳癌診療のことを書かせていただきます。外来に受診される方で最も多いのは、乳癌検診で異常を指摘された方達です。大部分の方は、良性のものですが、中には癌と診断される方がいらっしやいます。超音波検査で腫瘍があれば、外来で細胞診（細い針で病変部の細胞の一部を採取し顕微鏡で調べる検査）や針生検（太い針で細胞の一部ではなく組織の一部を採取する）を行います（病理診断の結果が出るまでには、約1週間かかります）。マンモグラフィーを使用しながらの生検（4mm程度の皮膚切開で済みます）を併用することで、超音波では映らない病変についても診断が可能です。

形成外科との連携や効果的な治療を実施

現在、乳癌手術の大半は乳房の部分切除ですが、腫瘍が大きい場合には、手術前にお薬を使った治療を行って腫瘍を小さくしてから手術をしたり、乳房の全てを摘出して、そのあと患者さんのご希望により、乳房の再建手術を行います（乳房の再建手術は、乳癌の手術と同じ、あるいは乳癌の手術が終わって後日のどちらでも対応可能で、当院の形成外科医が担当します）。手術で取れた腫瘍の性質をよく調べて、患者さんの癌に対して、最も効果的な治療（薬物、放射線）を行います。

チーム一丸となって

当院では、乳癌と診断された時点から、医師、癌専門の看護師、薬剤師などが

チームを組んで、患者さん、ご家族に寄り添ってお話を伺いながら、診療を進めていきます。医師からの説明のあと、もう一度看護師が、確認も含めて分かりやすく説明し、患者さんやご家族の事情を伺いながら、その患者さんに適した治療が受けられるように、スタッフ一同心がけています。



後列左から
小島 英哲先生、川口 英之先生、河島 俊文先生、五十嵐 高広先生、大坪 恭子先生
前列左から
小島 正夫先生、田村 光先生、城戸 啓先生、青木 真彦先生

手術支援用ロボット 「ダヴィンチX」が導入されます。

第一泌尿器科部長 かん ばら つね ひと
神原常仁

当院における前立腺癌手術のこれからを担う「ダヴィンチX」
当院泌尿器科は、2018年12月に米国のインテュイティブ・サージカル社が開発した手術支援ロボット「ダヴィンチX」を導入し、2019年2月より運用開始します。
ロボット支援手術とは、ダヴィンチ（手術支援ロボット）を使用することによって、高精度の内視鏡下で行われる手術のことです。当院ではこれまで前立腺癌に対する外科的治療は開放手術（腹腔鏡下小切開手術）を行ってきましたが、「ダヴィンチX」の導入によってより低侵襲であり、また高精度の手術が可能となります。



da Vinciの操縦席と神原先生

超高齢化社会と健康寿命

現在2人に1人が何らかの癌に罹患する超高齢化社会を迎えつつあります。2018年9月に国立がん研究センターがん情報サービスによる2018年がん統計予測が発表されました。この中で前立腺癌の罹患数は78,400例と全癌腫の第4番目に多く、死亡数は12,400例と65歳以降の高齢者において加齢とともに増加する傾向となっております。この数値は交通事故死（約3,700例、2017年度）の3倍以上です。このような前立腺癌に対する治療オプションは、監視療法、待機療法、ホルモン療法、放射線療法（外照射放射線治療、密封小線源療法、重粒子線療法、陽子線療法）、手術療法（腹腔鏡下小切開前立腺全摘除術、腹腔鏡下前立腺全摘除術、ロボット支援前立腺全摘除術）というように多岐に渡っています。どの患者さんがどの治療に適しているかは入念な治療戦略を立てることが必須となりますが、いかに健康寿命を延ばすかが一つの課題となっております。

泌尿器科医師としてできること

手術療法に限って言えば、前立腺全摘除術は根治（治癒）を目指しつつ、できるだけ入院日数を短く、身体に負担（出血や痛み）が少なく低侵襲であること、また合併症として挙げられる尿失禁が早期に回復し、勃起

不全の発生をいかに減らすのが重要となってきます。このように前立腺全摘除術はいくつものハードルを乗り越えなければならぬ難易度の高い手術であるため、より高精度で身体に優しい、ダヴィンチサージカルシステムが世界で使用されており、当院での運用開始までにはまだ時間があります。前立腺癌治療の選択肢の一つとして「ダヴィンチX」によるロボット支援前立腺手術を行えることで、患者さんの健康寿命を延ばす一助となれればと思います。



左からビジョンカート・パイシエントカート・サージョンコンソールと言いダヴィンチの頭脳及び目の役割・ロボットアーム・操縦席になります

3歳健診での肥満予防について

第一小児科部長 市川 剛ごう

あけましておめでとございませす。

那須赤十字病院小児科の市川剛と申します。今回は、大田原市で2013年4月から行っている3歳健診での肥満予防の取り組みについて解説したいと思います。

肥満予防のタイミングとは…?

肥満は、糖尿病や高血圧などの種々の生活習慣病の原因となることが知られています。また世界中での増加が社会問題になっており、その予防と治療は喫緊の課題となっています。一方で栃木県は、全国的にも小児肥満・成人肥満ともに多い土地柄です。肥満はなつてからでは治すことが難しいとされています。とすると予防が一番となりますが、いつ頃からどのように予防していくのが良いか。実は、この一見単純な問いに対し人類は答えを出せていません。

一般に、1歳頃から6歳頃までは一様にほっそりとし（BMIが低下し）、その後太り始める（BMIが増加に転ずる）ことが知られています。このBMIが増加に転ずるタイミングは6歳（5〜7歳）が多いのですが、このタイミングが早いと小児期、成人期に肥満、メタボリック症候群、糖尿病などになりやすいことが知られています。また小児期で高度肥満になった人のBMIを後から検討す

ると、ほとんどの人は3歳の頃には太ってはいませんが、すでに太り始めていることが明らかになりました。日本で1.5歳、3歳健診が法定健診として実施されていることから、この間に一般には低下するBMIが上昇している児を将来の肥満ハイリスクとして予防介入すれば良いのではとの着想を得ました。

家族みんなで肥満予防

大田原市長の肥満撲滅への意気込みもあり、世界に先駆けて2013年4月から3歳健診で肥満予防介入を実施しています。この3歳での肥満予防の考え方は、昨年末には医学会のトップジャーナルである *New England Journal of Medicine* でも取り上げていただき、今後国内外に広まっていく可能性を秘めています。

この介入の特徴としては、3歳では太っていないくても太り始めていることを問題としていることです。実際にハイリスク判定となる人の半数は正常の体格です。生活習慣は、この時期に身につくこともあり、5歳までに生活習慣を修正するように指導しています。結果、介入した児の多くは3〜5歳にかけてBMIが改善するという効果が得られています。祖父母も含めて、家族ぐるみで取り組むと上手くいくことが多い実感も得ています。

今後、この取り組みが大田原市のそして世界の肥満予防の特効薬になる日を夢見て、これからも微力ながら貢献したいと思えます。



たくさんの方にご来院いただきました。



11月17日にメディカル講座を開催しました。

「こんにちは、慢性心不全看護認定看護師です。」

慢性心不全看護認定看護師 佐藤 晴美

患者さんのために

今回は、心不全と慢性心不全看護認定看護師についてお話したいと思います。私は、今、救命救急センターに勤務しております。救命救急センターには、退院してもすぐに、心不全が増悪して入院される患者さんや、心不全が重症化してしまい最後の時を病院で迎えられる患者さんが多くみられます。そういった入退院を繰り返される患者さんの意思を尊重した生活調整を行い、患者さんが望む療養生活を共に考えることができるよう、2018年に慢性心不全看護認定看護師の資格を取得しました。

心不全とは？

2017年に日本循環器学会、日本心不全学会より『心不全とは、心臓が悪いために息切れや、むくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。』と心不全の定義について発表されました。我が国の循環器疾患の死亡数は、癌に次いで第2位となっており、心不全による5年生

存率^(※1)は50%と予後についても決して良くありません。心不全は、あらゆる心臓の病気の終末像であり、**寛解^(※2)**と増悪を繰り返しながら**ターミナル^(※3)**を迎えます。心臓が悪くなる原因として、高血圧や、心筋症(心臓の筋肉自体の病気)、心筋梗塞、弁膜症(心臓の中にある弁が、狭くなった

り、きっちり閉まらなくなったりする病気)、不整脈があります。この中には、日常生活を送る中で予防可能なものもあります。

多職種で協力しながら看護します

そこで、心不全を抱える患者さんとそのご家族が、病気と共に療養できるように価値観を尊重した生活調整を行うのが、私たち慢性心不全看護認定看護師の役割です。心不全は、症状が良くなっても、完全に治った訳ではありません。再び悪化させないように生活習慣に気をつけて心不全と上手く付き合っていくことが大切です。心不全を悪化させる原因として、塩分や水分の摂り過ぎ、薬の飲

み忘れ、心臓に負担をかける活動のしすぎ、通院をやめてしまう等があります。患者さんが大切にしていることを尊重しながら、どのように生活調整をすれば心不全を増悪させることなく、患者さんの望む生活が送れるかを考えながら、医師や薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、臨床

工学技士や在宅看護に携わるスタッフと共に協働して、心不全看護を展開していきたいと思っています。今後も、病棟や外来などで、お目にかかることがあるかと思いますが、お気軽にお声かけ下さい。どうぞ、宜しくお願い致します。

(※1) ……生存率…診断から一定期間後に生存している確率

(※2) ……寛解…病状が治まっておだやかであること・病気の症状が一時的あるいは継続的に軽減した状態

(※3) ……ターミナル期…病気による終末期のこと

第4回病院祭『マイタウンまつり2018』を開催しました!

今年、第4回となる病院祭『マイタウンまつり 2018』を「触れてみて 繋がる安心感」をテーマに開催しました。同祭において来場者最多を記録する大盛況でした。たくさんの方々と触れ合うことができました。ご来院ありがとうございました。

今回、初めての企画として『手術体験』を実施しました。中学生を対象に事前に申し込みをいただいた方から抽選で13名が参加し、院長や外科医師、看護師、臨床工学技士の指導のもと内視鏡操作などを体験してもらいました。楽しんでもらえたようでなによりです。これからも地域の方々と触れ合いながら、病院や医療について知っていただけるよう努力していきたいと思えます。



・手術室体験の様子(左から内視鏡操作体験・結紮体験・自動縫合器操作体験)

内視鏡操作体験：1人が内視鏡を操作し、もう1人がモニターの映像をたよりに器具を操作して輪ゴムを2つのピンにかけてもらいました。

結紮体験：創傷の縫合や、止血目的に血管をしぼるための糸の結び方を学んでいただきました。

自動縫合器体験：臓器等を切ると同時に、切り離された両端を縫合する器械の操作をしてもらいました。



・ドクターカー出動!
お祭り、楽しんでいただけたでしょうか。



・知っ得! 納っ得! お口のこと 今回、初参加の歯科衛生士さんです。歯磨きの指導と歯に関する相談を受けてくれました。



・三島中学校ブラスバンド部の演奏はなかなか聴くことができないのでとても感動しました。感謝です。



・なでしこ幼稚園体操と合唱を披露してくださいました。ありがとうございました。



・体力測定～あなたの口コモ度チェック～自分の体力がどのくらいか気になります。



・薬剤師って何してる? かわいい薬剤師さんが作っているお薬は何でしょうか?

病院ホームページ バナー広告募集

病院ホームページのトップページに広告を掲載しています。

■掲載位置

- A:全ページ左側の病院が指定する場所。
- B:全ページ下部の病院が指定する場所。

■掲載寸法

A 枠:縦70ピクセル×横220ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

B 枠:縦70ピクセル×横230ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

■掲載期間

一ヶ月を単位とし、最長1年

■募集枠

A 枠:3

B 枠:4

■掲載料金

A:15,000円/枠/月

B:10,000円/枠/月

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

E-mail: nrchp@nasu.jrc.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.nasu.jrc.or.jp/>



がんのつどい

1月5日(土)	フリートーク 会議室1・2
2月2日(土)	「がんのリハビリテーション」 理学療法士・作業療法士 会議室1・2
3月2日(土)	フリートーク 会議室1・2

今月の表紙



今年も開催した病院祭の新企画『手術体験』にて記念撮影。本当の手術しながらに帽子やマスク、手術着に手袋を着用し院長や外科の青木医師の協力の下、体験してもらいました。(最前列真ん中が院長先生、最後列左から2番目が青木先生) ここから医師の卵が生まれてくれると嬉しいですね!

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
来年は新元号となりますので、平成最後の新年のあいさつになります。
希望に満ちた新時代がおとずれることを期待したいと思います。
新しい時代を笑顔で楽しく迎えられるよう、皆さまのご清栄とご多幸をお祈り申し上げます。医事課 漆原 拓海

第5回那須赤十字病院講演会 がん治療と仕事の両立支援 ～働きやすい職場作り～

日時 平成31年1月29日(火) 14:00～15:30
会場 那須赤十字病院2階マイタウンホール
対象 企業の事業主

事業主向けとなっておりますが、
どなたでもご参加いただけます。

入場無料

講演 近藤社会保険労務士事務所代表

近藤 明美 先生
(当院顧問)

ハローワーク宇都宮就労支援ナビゲーター
芝間ゆかり 先生

大田原労働基準監督署安全衛生課長

山田 和昭 先生

がん患者と家族の会ピアサポート那須会長

並木 邦憲 先生

質疑応答

問合せ先 那須赤十字病院 がん診療対策推進室
☎0287-23-1122(内線 3517)

会場に駐車券をお持ちください。

主催 那須赤十字病院
後援 ハローワーク大田原、那須都市医師会

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma 救護服ぬいぐるみ」「CroKuma ナースぬいぐるみ」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。
以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵送 / 〒324-8686 大田原市中田原 1081-4

那須赤十字病院 総務課

プラタなす第24号 プレゼント係

FAX / 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第24号 プレゼント係」

メール / nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第24号 プレゼント係」

●応募締切り 2019年1月31日(木)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

那須赤十字病院

基本理念

日本赤十字社

マイタウン・マイホスピタル

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.24

発行日 2019年1月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷